

# ✓ BeStarter はじめに

BeStarterはWindows環境における

- ・システムの起動
- ・起動したシステムの監視
- ・Windowsのリブート(自動ログインも可能)
- ・上記3つのスケジュール管理

を簡単に行うアプリケーションです。また、

・JavaモジュールをWindows上で起動させる場合に起こるメモリリークを軽減する効果もあり、リソース利用もわずかです

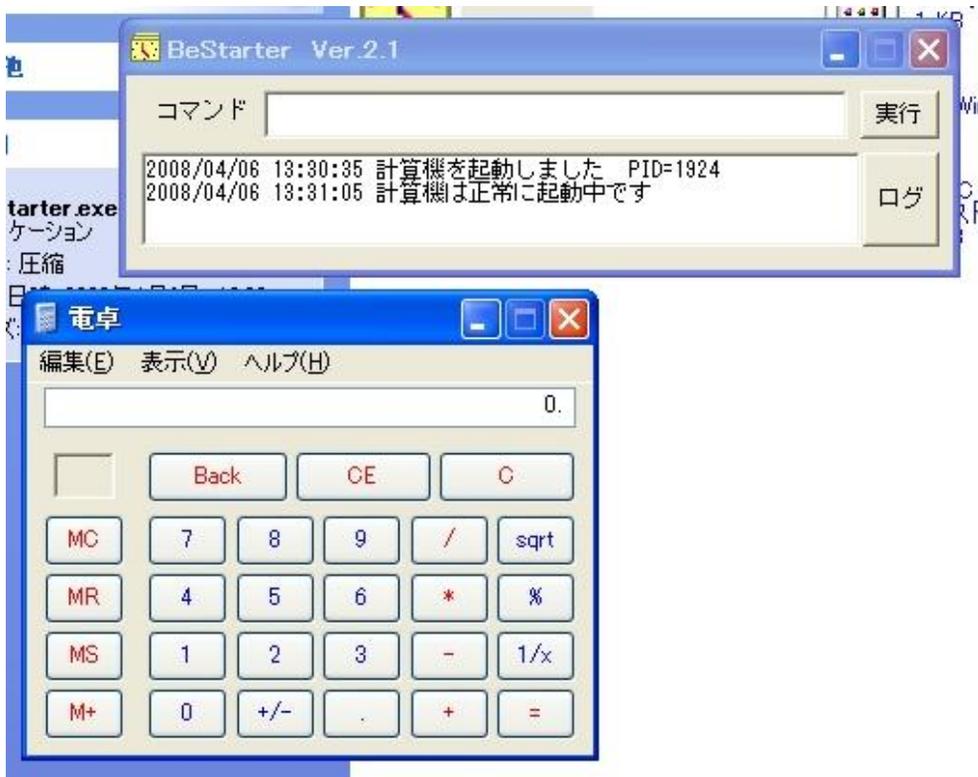
特に、監視機能は強力で、BeStarterから起動したアプリケーションが終了した場合、自動的に再起動させることができます

サーバー上で動作するモジュールが過度のアクセスによって落ちてしまう場合や定期的なリポートが行いたい場合など、かなり便利です

サーバー向けを考えて作っていますが、デスクトップPCなどでもいろいろ使えます

BeStarterの画面は大変シンプルですが、機能はとても豊富です

(下図 BeStarterの画面とBeStarterから電卓を起動させているところ)



## BeStarter稼働環境

Windows2000以降 (WindowsVistaは検証中)

Windows2003Server以降

# ✓ BeStarter 起動～終了

BeStarterのインストール、起動、終了は次の手順で行います。

1) ダウンロードしたzipファイルを適当なフォルダに解凍します。(下図は解凍時のフォルダ内)



2) フォルダ内のWindowsフォルダをcドライブにコピーします。

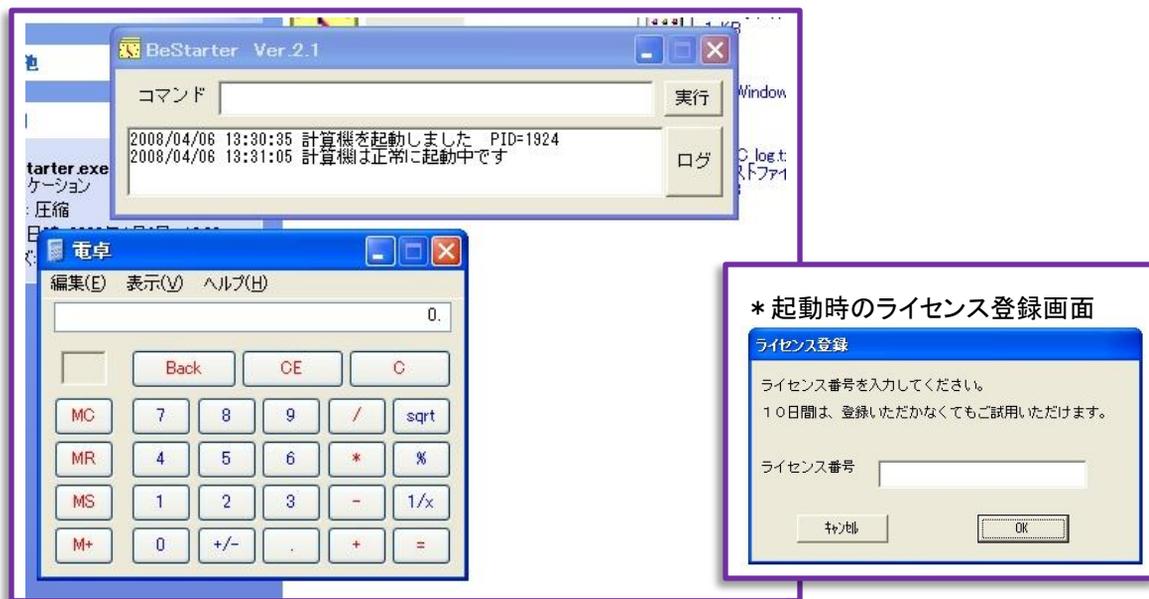
(フォルダ内にはBeStarterの稼働に必要なDLLが入っています)

3) とりあえず動くかどうか試したい場合は、ここで BeStarter.exe をダブルクリックすると

BeStarterが起動します。起動時に、ライセンス登録画面が表示されますが、起動から10日程度試用できますので、そのまま「OK」をクリックしてください  
デフォルトでは、

- ・Windowsの電卓を起動
- ・リポート機能OFF

という設定がしてあります (BeStarterの画面が表示されてから、電卓が表示されるまで少し間があります)



4) BeStarterを終了させる場合は、「コマンド」欄に「exit」と入力して「実行」ボタンをクリックして

ください。BeStarterが起動させたプログラムとともに、BeStarterが終了します

(BeStarterは管理者以外がBeStarterを終了させることができないよう、メニュー等での終了が行えないようになっています)

# ✓ BeStarter 設定概要

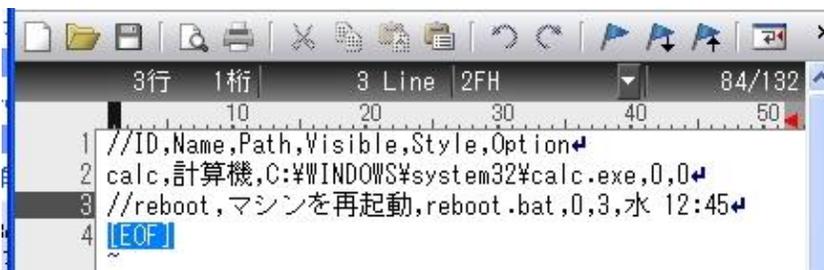
BeStarterの設定は、ini ファイルへの記述で行います。

メモ帳などで「Bestarter.ini」を開き、必要な編集を行ってください。



1) フォルダ内の「BeStarter.ini」をメモ帳などで開きます。

デフォルトでは、下記の内容が設定されています。



2) ini ファイルの記述方法は、以下のようになっています。

行頭に // を入れると、コメント行となります。

//ID,Name,Path,Visible,Style,Option

ID  
自由に  
記述できます

calc,計算機,C:%WINDOVS¥system32¥calc.exe,0,0

Name  
起動時に  
モジュール名とし  
て表示されます

Path  
起動したいモジュールを  
フルパスで記述します。

Style, Option  
スタイルとオプションを  
指定することで細かい  
動作管理ができます。

## 記述例

103,メモ帳,C:%WINDOVS¥NOTEPAD.EXE,1,4,8 15:02

この例では、毎月8日の15時にnotepad.exeを起動します。

# ✓ BeStarter 設定詳細

BeStarterの設定方法の詳細は以下のようにになっています。

**設定書式** ID,Name,Path,Visible,Style,Option

項目	設定内容
ID	任意のタスクIDを設定します(全半角利用可)
Name	タスク名、または説明を記述します 設定内容がログ出力で出力されます(全半角利用可)
Path	起動、監視するアプリケーションの実行ファイルをフルパスで記述します (半角英数のみ)
Visible	DOS窓で起動するウィンドウの表示、非表示を切り替えます(半角数字) 0=非表示 1=表示 (この機能はDOS窓のみ有効です)
Style	指定アプリケーションの実行形式を指定します(半角数字) 0=初回起動と状態監視、自動再起動が有効 1=ボタン(初回起動のみ、状態監視、自動再起動 無効) 2=毎日実行 Option に時刻を指定 3=毎週実行 Option に曜日と時刻を指定 4=毎月実行 Option に日と時刻を指定 5=毎年実行 Option に月日と時刻を指定
Option	Style指定内容の詳細を指定します Style=2 の時 HH:MM形式で時刻を指定(01:30) Style=3 の時 曜日(月~日)とHH:MM形式で時刻を指定(水 03:00) Style=4 の時 日とHH:MM形式で時刻を指定(1 15:00) Style=5 の時 MM/DD形式で月日とHH:MM形式で時刻を指定(12/15 13:30)

**\* 各項目の区切りは「半角カンマ」、曜日・日付・時刻の間は「半角スペース」です  
全角文字を使うと、誤作動します**

#### \* Styleの使い方

styleはモードのようなものです

0を指定したアプリケーションは、BeStarter起動時に無条件で起動し、以後監視されます。

1を指定した場合は、BeStarter画面にアプリケーションの起動ボタンが表示され、  
ボタンをクリックすると起動するようになります。(簡易ランチャーのように使えます)  
また、このモードではアプリケーションを終了すると強制再起動が行われません。

2~5はスケジュールによる起動となり、設定するアプリケーション、モジュール毎にOptionの指定内容で起動させることができます。

#### \* アプリケーションやモジュールには引数の指定が可能です。

アプリケーションやモジュールには、そのアプリケーションで指定可能な引数の設定ができます。

これにより、起動時に特定のドキュメントファイルを開くといった利用が可能です。

# ✓ BeStarter 設定例1

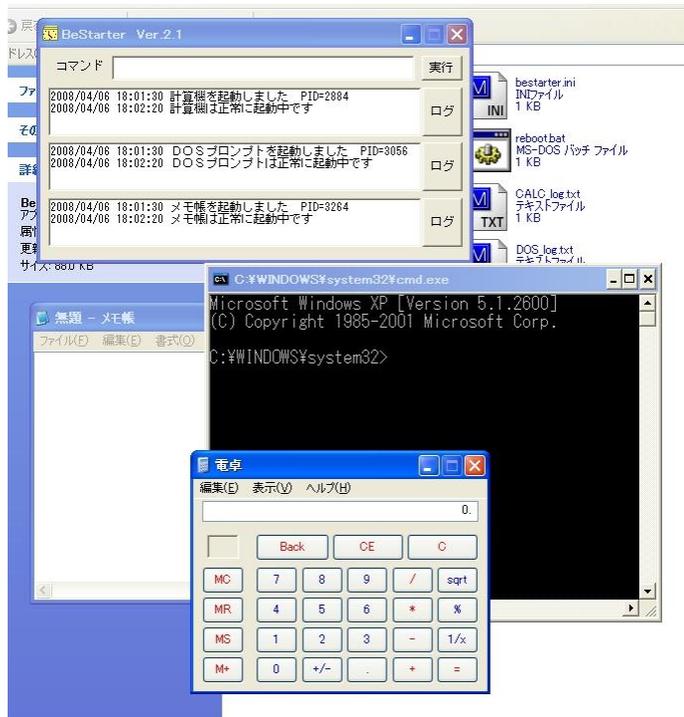
BeStarterの設定例です

この例では、3つのアプリケーションをstyle = 0 で起動させています

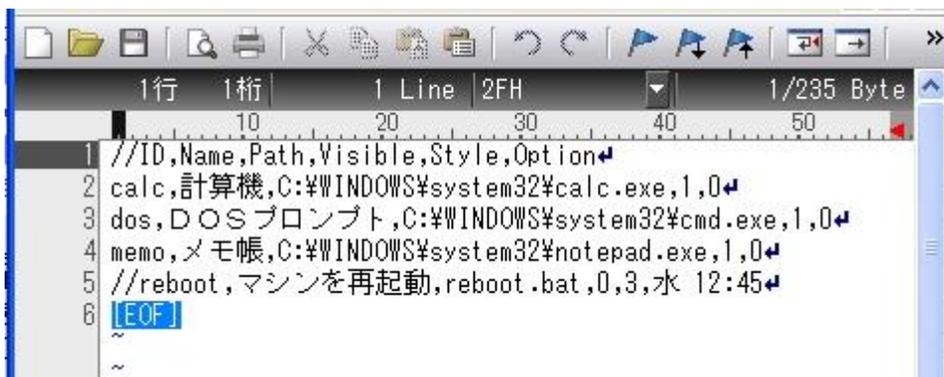
Style = 0 では状態監視が有効となるので、アプリケーションの監視状況が各ウィンドウに表示され、アプリケーションを終了させた場合、自動的に再起動します

(つまり、この状態ではアプリケーションを終了させることができなくなります)

終了させてはいけないアプリケーション、モジュールをこの状態で起動させることで  
トラブルによるシステムダウンを最小限にすることができます)



この設定時の設定例です



# ✓ BeStarter 設定例2

BeStarterをランチャーとして使う場合の設定例です

この例では、3つのアプリケーションをstyle = 1 で起動できるようにしています。

Style = 1 ではBeStarterの特徴である状態監視が無効となるので、状態監視したいアプリケーションをStyle = 0 で設定し、たまにつかうツールなどをstyle = 1 で設定すると、便利です。

(Style はアプリケーションごとに設定を変えることができます)



この設定時の設定例です

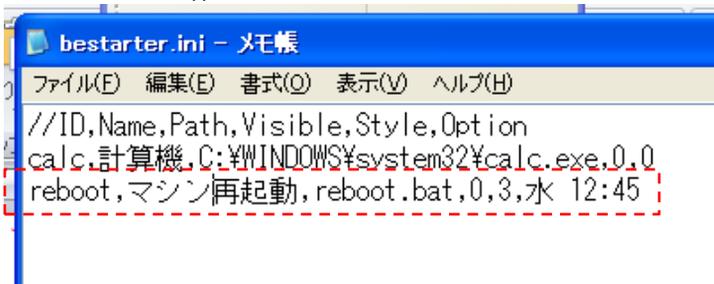
```
4行 48桁 4 Line ODH,0AH 185/295 Byte
1 //ID,Name,Path,Visible,Style,Option
2 calc,計算機,C:%WINDOWS%system32%calc.exe,1,1
3 dos,DOSプロンプト,C:%WINDOWS%system32%cmd.exe,1,1
4 memo,メモ帳,C:%WINDOWS%system32%notepad.exe,1,1
5 //reboot,マシンを再起動,reboot.bat,0,3,水 12:45
6 [EOF]
```

# ✓ BeStarter リブート設定

BeStarterには、リブート、自動ログインを可能にするExitWindows.exeを同梱しています  
自動ログインを行うには reboot.bat の記述内容を変更します



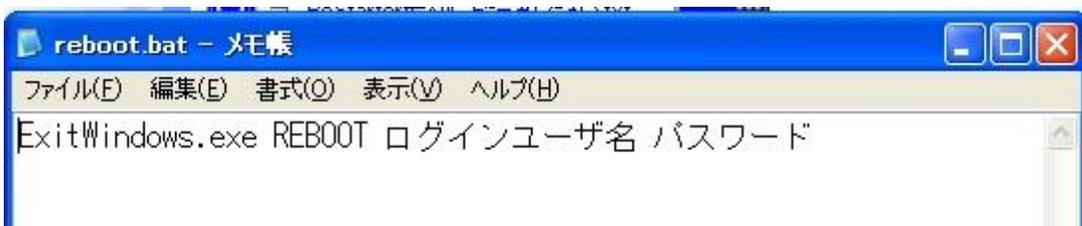
ExitWindows.exe は、次のような設定で利用できます。  
(初期設定では // でコメントアウトされています)



この設定では、reboot.bat に設定されたID、パスワードを参照し、毎週水曜日の12:45に再起動、ログインを行います

このとき、BeStarterをスタートアップ等に登録しておくことで、設定されたアプリケーション群を自動起動させることができます

Reboot.bat の記述は、次のように行います



ログイン名: Windowsのログイン名を設定します

パスワード: windowsのパスワードを設定します

「REBOOT」部分は POWEROFF、LOGOFF、SHUTDOWN、REBOOT のいずれかを指定できます

\* リブート機能は、環境によってうまく動作しない場合があります  
テストを行ってからのご利用をお勧めします

# ✓ BeStarter ライセンス

BeStarterはシェアウェアです。

起動後10日前後はすべての機能をご利用いただけます

以後、継続しての利用をご希望の場合は、ベクターでライセンス登録をお願いいたします

## ■ベクタープロレジの利用方法

1. 下記「プロレジページ」にアクセスし、ページ内の案内に従ってください

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/util/se452645.html#PAY>

2. ページ内で必要になる項目は、以下になります

【ソフトウェア名】 BeStarter

【ソフト本体価格】 4,179円(税込)

【レジ作品番号】 SR130400

3. 上記手続きでライセンスキーが発行されます。

発行されたライセンスキーを起動時のライセンス登録画面で入力してください

以後、ライセンス登録画面が表示されなくなります

ライセンスキーの発行までの時間は、お支払方法によって変わります

詳しくはベクター内のご案内でご確認ください

## ■シェアウェア利用規約 BeStarter

本ソフトウェアはシェアウェアです。

ユーザー様が本ソフトウェアの正規ライセンスを取得された場合に限り、ユーザー様名義で所有する1台のコンピュータにインストール、使用することができます。複数台で使用する場合は、台数分のライセンス登録が必要です。

## ■お問い合わせについて

BeStarterのご利用についてのお問い合わせは、下記までメールにてお願いいたします。

メールには、ご連絡先、具体的な不具合の状況、お使いのコンピュータ、OS、常駐アプリケーション等の情報を記載いただけると助かります。

BeStarterサポート窓口: [bestarter@metament.jp](mailto:bestarter@metament.jp) (MetaMentJapan株式会社内)

\* MetaMentJapan株式会社

シミュレーションシステム、WEBサービスなどの開発、

BeStarterの機能拡張や関連システム開発なども可能ですので、

ご質問、ご要望などがございましたらお気軽にご連絡ください。

## ■その他

### 1.著作権について

BeStarterの著作権は森本寛が保有し、MetaMentJapanに販売・実施権が委託されています。

### 2.免責

本ソフトウェアを使用した結果(ハードウェア、他のソフトウェアの不具合等を含む)及び、ユーザー様に直接的、間接的に発生するいかなる損害についても、弊社は一切の責を負わないものとさせていただきます。

### 3.不具合等

本ソフトウェアが正常に動作しない場合、具体的な不具合の状況とお使いのコンピュータ、OS、常駐アプリケーション等の情報をサポートあてメールでご連絡下さい。可能な限り調査、対応させていただきます。